

氏名 松尾英彦（山口県在住）
立場 アマチュア無線家
無線従事者資格
第 1 級アマチュア無線技士
第 1 級陸上特殊無線技士
職業 会社員（化学、技術系総合職）

情報通信審議会
情報通信技術分科会
放送システム委員会 御中

「放送事業用無線局の高度化のための技術的条件」についての意見

*** 1.2GHz 帯（1240MHz-1300MHz）に関して ***

私は昭和 50 年に無線従事者資格を取得後、長年アマチュア無線業務に携わり利用している立場として、意見を述べさせていただきます。

- 1.2GHz 帯（1240MHz-1300MHz）について、放送事業用無線局がこの周波数を放送事業に利用することについては反対します。
- 1.2GHz 帯のアマチュア無線局業務は「二次業務」となっているが、この周波数帯はにとって重要かつ貴重であり、むしろ「一次業務」利用を希望したい。

理由は下記のとおりです。

1. この 1.2GHz 帯ではアマチュア局は「二次業務」割当にもかかわらず、利用割合は 99.9%と もっとも多くの無線局が利用しています。
 - ・参考とした資料、http://www.soumu.go.jp/main_content/000121758.pdf 4-13 ページにある表 - 全 - 共 4 各総合通信局館内の 1.215GHz 超 1.4GHz 以下の周波数における無線局数の割合放送事業用とするのであれば、すでに利用されなくなった放送事業用周波数を利用すべきと思われます。
2. 以下にこの周波数帯（以下、1.2GHz 帯）がアマチュア局の無線通信にとって重要である理由を述べます。

周波数帯の特徴

- ・ 1.2GHz 帯は UHF 電波の特性を生かして、直線的な見通し距離圏内の通信が常時可能である。
- ・ アマチュアによる簡単なビームアンテナでも山岳回折や地形による反射を利用して数百 km に

およぶ範囲での比較的安定した通信が可能である。

- ・ さらに、大気圏内の伝搬コンディションによっては 1000km を超える長距離通信ができる。
- ・ 電離圏の活動状況による影響（反射や減衰）を受けにくく、信号強度や位相の不規則な変化（フェーディング）が生じにくいいため、画像通信やデジタル通信などを含む各種通信の実験に適しています。
- ・ 電波が電離圏を通過する際のファラデー回転が生じ難く、減衰が少ない。水蒸気吸収がなく対流圏雑音も少ない。このことから、アマチュア衛星通信や月面反射通信の実験に好適。

アマチュア業務と 1.2GHz

- ・ 波長が 23cm と取り扱い易い波長であり、必要とする高利得のアンテナが程良い精度で工作できる周波数帯である。
- ・ 周辺の周波数帯を使用している機器の普及によって、従来高価であった高性能のデバイスや高周波部品を入手し易く、利用できるようになっている。
- ・ 430MHz 帯や 2.4GHz 帯のアマチュア業務については、他の周波数のスプリアス等の影響、ならびに映像伝送や無線 LAN 機器等の利用が広がり、アマチュア業務が期待する微弱な電波の受信が難しくなっている。（特に、月面反射通信や狭帯域デジタル通信の実験）
- ・ このように、1.2GHz 帯のアマチュア業務の健全な利用に確保したい。

（* : BS の IF 周波数帯となっておりその受信ブースターの異常発信等による障害が発生している。近年この受信ブースターの適切な取扱いの指導が進み、障害も減少傾向にある）

以上、1.2G 帯は放送事業用の利用に反対である旨を述べさせていただきました。

もし放送事業用途で利用される場合におかれましても、他の用途との電波干渉については十分慎重に検討すべき周波数帯であることをここに申し添えいたします。

以上